

復讐の表象

－『ヴェニスの商人』と『セビリアのユダヤ人』－

日大生産工 ○福島 昇

シェイクスピアの『ヴェニスの商人』は後味の悪さが残る劇である。シャイロックは、ユダヤ人で高利貸しであるが故にキリスト教徒から罵倒され、唾を吐きかけられ、いわゆる「人肉裁判」ではポーシャの悪辣な機知によって敗北し、財産は没収され、果たしてこれが公平な裁きなのかと疑わざるを得ないからだ。さらに、シャイロックの悲劇は 20 世紀のホロコーストやポスト・ホロコーストに、異民族の復讐という観点からみれば、2001 年のいわゆる 9.11 テロ事件にもつながってくるからだ。

後味の悪さはないという見方もある。なぜならば、劇の構造からみれば、バサーニオとアントーニオの厚い友情、バサーニオとポーシャ、グラシアーノとネリッサ、ロレンゾーとジェシカのためたい結婚などシェイクスピア喜劇お決まりのハッピーエンドで終わっているからだ。またシャイロックは利子を取って金を貸すという現代では当たり前前の商売をしていたが、当時は不道德な行為として忌みきらわれていたからだ。例えば、ダンテの『神曲 地獄編』で、高利貸しは性的倒錯者と同じ罪人として描かれている。金のためなら他人の命をもねらうシャイロックははじめからエリザベス朝の観客の同情の対象から外されていたので、現代人が劇場で経験するような後味の悪さはなかったと思われるからだ。さらに、「公式には、ユダヤ人はエドワード 1 世の統治以来、300 年間英国から追放されていた。通俗的な想像では、ユダヤ人はほとんど架空の動物——かつてキリストをはりつけにし、反キリスト教行為を貫くと思われるかもしれない異国の邪悪な生きもの——と思われていた」（Evans 284）からだ。ほとんどの英国人は実際のユダヤ人と接触し

ていなかったもので、ユダヤ人は「いけにえ」として描くのに都合がよかったからである。

しかし、シャイロックにいかに同情しようと、彼の復讐は一種のテロでしかないとも言える。

「人肉裁判」が終わった後、たとえそれが権力によるペテンであるにせよ、アントーニオの命が救われたことに観客が安堵するのは至極当然である。このように、『ヴェニスの商人』の解釈が難しいのは、劇が復讐、民族、宗教、ビジネスなど一筋縄では行かないさまざまな問題や人間存在の複雑性をかかえているからだ。

『ヴェニスの商人』は、20 世紀にはかなりの問題劇となったのである」（Proudfoot, Thompson, and Kastan 831）。

時代と場所は異なるが、アフリカ系アメリカ人ビクトール・セジュールのフランス語による戯曲『ディエガリアス』（英訳は『セビリアのユダヤ人』）は『ヴェニスの商人』に則ったり、同じく復讐、民族、宗教、ビジネスと革命の問題を扱っている。『ヴェニスの商人』は 16 世紀ヨーロッパ随一の自由主義都市国家ヴェニス舞台としているが、『セビリアのユダヤ人』は 16-17 世紀のスペイン異端審問時代とフランス革命を時代背景としている。

セジュールの父親はサントドミンゴの原住民であり、母親はニューオーリンズのクレオールである。セジュールの出自が『セビリアのユダヤ人』を書かせる文学的動機となる。セジュールはクレオールと黒人の争い、ユダヤ教徒とキリスト教徒の争いをみている。ヨーロッパ史において、セジュールはユダヤ教徒とキリスト教徒の争いが単なる信仰の問題を超えていることを感じとっている。セジュールがゲッター

Representation of Revenge;
The Merchant of Venice and The Jew of Seville

Noboru FUKUSHIMA

に住まざるをえなかったユダヤ人と自由黒人の運命を重ねあわせたのも十分にうなずける。1844 年、『セビリアのユダヤ人』はパリで開演されたが、上演の意図はアメリカの奴隷反乱と 19 世紀フランスの政治的激変をダブらせたかったからである。

主人公のディエガリアス（本名ヤコブ・エリアシン）は、ただユダヤ人であるが故にサンタフィエル伯爵ドン・ディエグ・デ・テロ（以後ドン・ディエグ）からいわれなき民族的、宗教的差別を受ける。カスティリャ王アンリ 4 世（以後国王）はディエガリアスに頼まれ、ドン・ディエグの息子であるサンタフィエル伯爵ドン・ファン・デ・テロ（以後ドン・ファン）とイネスの結婚を命じるが、イネスがユダヤ人の娘であることを知ると、その民族と家柄を侮辱し彼女との結婚を承諾しない。ディエガリアスはキリスト教徒のドン・ファンへの深い恨みから国王と裏取引をしてまでドン・ファンを断頭台に送り復讐を果たす。ドン・ファンがイネスをだましたにせよ、彼がディエガリアスに暴力を命じたドン・ディエグの息子であるにせよ、イネスが命をかけてまで救おうとするドン・ファンを死に追いやった行為は残酷であり観客の理解を得難い。しかし、ディエガリアスには、ドン・ファンへの個人的な復讐のためばかりでなく、ユダヤ民族のために、あるいは祖国セビリアのために身を捧げるといふ公の一面もある。

本発表の目的はシャイロックとディエガリアスにおける復讐（の動機・目的・結果など）に、二人の主人公がいかに対処しているかを比較、分析し、その違いと類似性を明らかにすることにある（中略）。

以上みてきたように、『ヴェニスの商人』と『セビリアのユダヤ人』に共通なのはロマンス劇、例えば、『嵐』の主人公プロスペローが人間悪に対して示した、復讐とは対極の赦しと和解のテーマがないことである。

シャイロックには、ユダヤ教（ユダヤ民族）のためという気持ちもあるが、主としてアント

ーニオへの個人的な復讐のために最後まで自己を貫き通すが、裁判で敗北する。しかしある意味では、真の敗北者はキリスト教徒と言えるかもしれない。シャイロックを英雄とみる見方もある。しかし、「ユダヤ人には目がないのか？」ではじまるシャイロックの台詞にいかに深く共鳴を覚えようと、ブラックモア・エヴァンズが言うように、「シャイロックを『ヴェニスの商人』の英雄としてみるのは、『マルタ島のユダヤ人』のバラバスがその邪悪さにもかかわらず、英雄であるという特別な意味においても間違いであろう」（Evans 285）。

一方、ディエガリアスは単にドン・ファンやドン・ディエグに対する個人的な、宗教的な、民族的な復讐のためばかりでなく、ユダヤ民族のために、カスティリャの自由のためにという個人を超えた英雄の側面がある。このように、シャイロックとディエガリアスの復讐は徹底的に異なる。喜劇『ヴェニスの商人』と悲劇『セビリアのユダヤ人』が、見かけの類似を越えて、深さと広がりをも全く異にする異質の劇であるのはそのためである。

引証資料

福島昇・木内徹 「(共訳) ピクトール・セジュール『セビリアのユダヤ人』『日本大学生産工学部研究報告 B (文系)』第 43 巻 (2010 年 6 月), pp. 1-57.

Greenblatt, Stephen. *Shakespeare's Freedom*. Chicago and London: U of Chicago P, 2010.

Séjour, Victor. *The Jew of Seville*. Trans. Norman R Shapiro. Urbana: Illinois UP, 2002.

Shakespeare, William. *The Riverside Shakespeare*. General and textual ed. G. Blakemore Evans. 2nd ed. Boston and New York: Houghton Mifflin Company, 1977.

Wilders, John. *The Merchant of Venice: A Casebook*. London: Macmillan, 1969.

* 本発表は日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究 (C)）の助成による。